

平成 23 年 4 月 27 日

報道発表

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会

**東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）の
実施状況について**

平成 23 年 3 月 31 日付で文化庁から報道発表された東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）の実施状況について、ご報告いたします。

○当面の主な動き

日 程 等：4 月 28 日（木）から石巻文化センター（別紙参照）内の被災文化財等の搬出

主な被災文化財等：毛利コレクション（別紙参照）

（参考）今までの主な動き

4 月 15 日（金） 被災文化財等救援委員会第 1 回会合
（於 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究

所）

4 月 19 日（火） 宮城県現地本部本格始動（於 仙台市博物館）

4 月 20 日（水）から 石巻文化センター内の瓦礫撤去等

<問合せ先>

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局
事務局長 石崎武志

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所
副所長・保存修復科学センター長

電話：03-3823-2995

(別紙)

○石巻文化センターについて

市制施行50周年事業として、昭和61年開館。博物館的機能・美術館的機能・社会教育的機能・情報センター的機能・屋外交流機能の5つの機能を兼ね備えた石巻市立の複合施設。

○毛利コレクションについて

毛利コレクションは、石巻市住吉町の故毛利総七郎氏が、およそ70年をかけて収集したコレクションです。

氏は、子供のころの切手収集をきっかけとして、種々の資料を収集しました。また、沼津貝塚で、石の鍬を拾ったことから考古学に興味を持ち、自費を投じて市内の遺跡の学術発掘を、盟友の故遠藤源七氏らと行い、数々の成果を挙げました。そして東北大学に移譲された考古資料のうち、沼津貝塚出土骨角器など473点、及び現在もコレクションにある米山町網場遺跡出土の岩版は、国の重要文化財に指定されています。

コレクションの総数はいまだ不明ですが、数万点とされています。その内容は、大きく歴史資料・民俗資料（特に都市部の庶民資料）・考古資料・民族資料（特にアイヌ関係）・美術工芸品・研究資料などにわけられます。これらの資料は毛利コレクションでしか見ることができないものもあり、非常に貴重なものとなっています。

石巻鑄銭場資料・アイヌ資料・庶民文化資料は、特に貴重なものです。石巻鑄銭場資料は、数少ない近世の銭の鑄造関係資料で、毛利コレクション以外では残っていない資料も多いのです。また、アイヌ資料は、日本有数のコレクションのひとつです。庶民資料は、戦前の駅弁の包み紙など現在ではほとんど収集不可能な資料が多く、大変に貴重なものと言えるでしょう。

(石巻市ホームページを基に作成)

<http://www.city.ishinomaki.lg.jp/index.jsp>